

令和元年度 学校教育相談専門部会 県外視察研修会報告書

報告者 浜松修学舎中学校・高等学校

副部長 夏目雅世

1. 研修目的 大谷高校は、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを常勤にする等、画期的な教育相談体制のもと、きめ細かい生徒支援を行っている。実際の校内連携や支援の様子を視察し、県内私立学校の教育相談の充実を図る。

2. 日時 令和2年2月14日（金）13:30 ～ 16:30

3. 視察校 名古屋大谷高等学校

住所 愛知県名古屋市瑞穂区高田町4-19

電話 052-852-1121

アクセス 名古屋駅から地下鉄桜通線「瑞穂区役所」駅を下車し
徒歩7分

担当者 奥田健司先生（教育相談室長）

4. 参加者 副部長 浜松修学舎中学校・高等学校 養護教諭 夏目雅世
専門委員 知徳高等学校 教諭 袴田千木子
専門委員 日本大学三島高等学校・中学校 教諭 田中浩章
専門委員 静清高等学校 教諭 中川鉄夫
専門委員 島田樟誠高等学校 教諭 小塚吉通
専門委員 常葉大学附属菊川中学校・高等学校 教諭 高橋英司

5. 研修日程 12:49 発(名古屋駅)～13:07 着(瑞穂区役所) 市営地下鉄桜通線・徳重行
13:30～13:50 教育相談室長挨拶 ・ 視察スケジュール説明
教育相談部員の紹介
13:50～14:25 梶浦校長挨拶
14:25～14:45 スクールカウンセラーの業務内容
14:45～15:05 スクールソーシャルワーカーの業務内容
15:05～15:30 施設見学 (Clover Room①・Clover Room②・保健室)
15:30～16:30 教育相談室長（奥田先生）より教育相談体制の紹介
質疑応答

6. 研修内容 名古屋大谷高等学校

①校訓 「人と生まれ人になる」

②学校概要

真言宗大谷派の祖である親鸞聖人のみ教えに基づき、「いのちを大切にし、真実

に生きる人間形成を目指す」ことを見学の精神としている。大谷高校は190年を超える歴史ある学校であり、文政10年(1827年)に東本願寺名古屋別院境内の関蔵長屋が起源となる。

令和元年度は約1,600人の生徒が在籍し、「合掌に始まり合掌に終わる」を基本姿勢として、学校生活を送っている。

- ③相談スタッフ
- ・教育相談室長 ➡ 教員1人
 - ・学年教育相談担当 ➡ 教員2人
 - ・SC(スクールカウンセラー) ➡ 常勤1人・非常勤1人
 - ・SSW(スクールソーシャルワーカー) ➡ 常勤1人
 - ・精神科医 ➡ 相談会年7回実施
 - ・SST(ソーシャルスキルトレーニング) 専門員
➡ 年10回実施

④教育相談室長の役割

- ・生徒支援会議の資料作成
校内ランを活用して、全職員に毎週「気になる生徒」についてのアンケートを実施。集約して支援の必要な生徒のリストを作成する。また、欠席、欠課時数の多い生徒のリストも作成。
- ・生徒支援会議の運営
司会・進行を行い、会議終了後、各担任に見立て・支援方法等について、校内ラン等を活用し、関係職員にフィードバックを行う。
- ・校内、校外の各種会議への参加や、教務部との連携
- ・生徒、保護者、教職員への情報発信
- ・教職員研修の企画運営 等

⑤SCの業務内容

- ・生徒、保護者カウンセリング(カウンセリングは原則予約制で、終了後、見立てと支援について、校内ランにて関係職員に送る)
- ・心理検査の実施 ➡ ウェクスラー式知能検査、描画法、投影法、箱庭 等
- ・関係会議への参加
- ・教育相談スタッフ、教職員との連携
- ・SCの1日のスケジュール(例)

| | |
|-------|----------------------------|
| 始業～1限 | 室長・SSWとの打ち合わせ・情報共有 |
| 2限・3限 | 生徒支援会議 |
| 4限 | 生徒との面接(教室に入れない生徒 等) |
| 昼休み | 居場所対応(昼食を取る場所・不意に相談に来る生徒等) |
| 5限 | |
| 6限 | ケースについて個別検討 |
| 授業後① | 〃 |
| 授業後② | 生徒との面接 |

⑥ S S Wの業務内容

- ・生徒、保護者面接（見立てと支援について、校内ランにて関係職員に送る）
- ・関係会議への参加
- ・教育相談スタッフ、教職員との連携
- ・外部機関との連携（訪問・電話・ケース会議への参加）
- ・校納金問題について連絡会を開き、事務と情報交換を行う。
- ・S S Wの1日のスケジュール（例）

| | |
|-------------|--|
| 8：30 | 始業 |
| 8：30～9：00 | 室長・S Cとの打ち合わせ、情報共有 |
| 9：00～12：50 | 生徒支援会議 生徒・保護者との面接・教職員との打ち合わせ 外部機関とのケース会議・情報共有、記録作成 等 |
| 12：50～13：20 | 居場所対応 |
| 13：20～14：05 | 昼休憩 |
| 14：05～17：15 | 生徒・保護者との面接・教職員との打ち合わせ 外部機関とのケース会議・情報共有・記録作成 等 |

⑦ S CとS S Wの連携

- ・情報共有は毎日実施している。ケースが悪化する方向に動いた場合、迅速な役割分担の判断、見立てがしやすい。
- ・S Cのケースであっても、医療機関や児童福祉機関等の連絡調整、制度の詳細について、S S Wの助言を受けることができる。
- ・生徒支援会議において、S Cのケースと判断された場合でも、面接によって重篤な家族問題、家庭経済問題等、S S Wの初動を要請することができる。

⑧ 生徒支援会議の実施（毎週水曜日、2・3限）

- ・メンバーは、管理職（教頭）、教育相談室長、学年教育相談担当、保健室、S C、S S Wで構成されている。
- ・出席者から支援対象生徒についての状況報告が行われ、見立て、具体的な支援方法について検討する。
- ・担任や他職員と審議する必要がある場合はケース会議へと繋げる。
- ・支援会議に挙げた生徒は校内ランで、関係職員にフィードバックする。

⑨ 精神科医による相談会

- ・受診が難しい生徒を対象に年7回実施。14：00～17：00、3～5人実施。
（初回相談者50分、2回目以降30分）

⑩ S S T（ソーシャルスキルトレーニング）の実施

- ・S S T専門員に依頼し、年10回実施。

- ・社会人として生きていくために必要なコミュニケーション技術や対人関係のとり方を習得することを目的とし、ゲームなどを交えながら楽しく行っている。

⑪相談室（Clover Room①・Clover Room②）の運営

- ・Clover Room①にはS C、Clover Room②にはS S Wが常駐し、相談活動を行っている。
- ・相談件数は、平成 30 年度 380 件（平成 29 年度は 348 件）、1 日当たり 2～3 件の割で実施されている。

⑫生徒、教職員への情報発信

- ・「こころの健康だより Clover 通信」を月 1 回発行し、Clover Room、S S T、心理テストの紹介を行っている。
- ・教職員に対しては、夏季教職員研修、職員会議での研修会報告を実施し周知を図る。

7. 視察を終えて

名古屋市では平成 26 年度より「子ども応援委員会」の事業が開始され、S CやS S Wの常勤化が進み、平成 31(令和元)年度には中学校全 110 校に常勤S Cの配置が完了している。

しかし、静岡県内のS C常勤化は難しく、人材不足や偏在、財政状況等の理由から、公立、私学ともに非常勤での採用が大半を占めている。

大谷高校は名古屋市よりも先駆けて、平成 24 年に専任S Cを導入し、さらに平成 30 年にはS S Wも常勤化した。

専任S C，S S W導入を実現するに当たっては、「退学者を 3%未満に抑える」「生徒を 3 年間しっかり学習させる」この 2 つを大前提に掲げ、理事会を説得し今日に至ったそうだ。

実際、約 1,600 人が在籍する大規模校でありながら、退学者は 3%を割り、大きな成果を上げている。

また、校長先生を始め、管理職の教育相談に対しての理解が深く、バックアップ体制が確立されていることも、教育相談室を円滑に運営していく上で大きな力となっていると感じられた。

本県私学において、大谷高校のような支援体制を整備することはまだまだ難しいが、今回の視察研修から得た、支援体制・相談室の運営、情報発信等を参考に、更なる教育相談の充実を図っていきたいと感じた。